

男女共同参画センターだより

令和7年度男女共同参画週間記念事業を実施しました



講師 斉藤容子さん
(関西国際大学客員教員、人と防災未来センターリサーチフェロー)

地域防災 ～男女共同参画の視点で考える～

開催日:6月28日(土)

会 場:クロスパル高槻5階 視聴覚室

6月23日から29日までの男女共同参画週間に合わせ、男女共同参画センターと同センター登録団体交流会が、協働で企画運営する「男女共同参画週間記念事業」を実施しました。

講師に斉藤容子さんをお招きし、「地域防災～男女共同参画の視点で考える～」についてご講演いただきました。

みんなでつくる「多様なニーズ取り入れた避難所」



■防災の担い手は「地域住民」

東日本大震災等の災害において、行政主体による避難所の運営は困難であることが明らかになりました。高槻市の地域防災計画でも「地域住民が主体的に指定避難所の管理・運営を行うこと」となっています。

避難所生活では、スペースの狭さによるプライバシーの欠如から更衣室も避難場所に使用されるなど、女性が着替えや授乳などで非常に困惑することもありました。避難所で安心して過ごせず、ストレスを抱えてしまった事例も少なくありません。また、災害時には平常時における社会の課題が一層顕著に現れますが、DVや性暴力が災害時にも発生していることが明らかになっています。平常時から男女共同参画の推進が防災の基盤です。

■意思決定の場への女性の参画が必要

市区町村防災会議のうち女性委員のいない会議数は2019年で22.2%と、意思決定過程における女性の参画割合は低い状況です。そのため、災害時や復興などの場面において、女性と男性のニーズの違いが反映されにくいという課題も生じていました。災害に強い社会の実現には、女性をはじめ、地域の多様な人たちが災害対応の担い手となり、意思決定の場に参画することが必要です。

災害後、何が必要か、どんな支援が必要かは、性別、年齢、文化、宗教など様々なことによって違ってきます。被災者のニーズは一人ひとり違い、できることも一人ずつ違います。それらをどう生かしていくのかを考えることが求められています。

■登録団体が活動内容をPR



事業を企画・運営した男女共同参画センター登録団体交流会のメンバーから、各団体の活動内容などを紹介しました。

参加者からの声

○大変分かりやすく、何をどう考えておかなければならないのか理解できました。「伝える」ことも防災の一つだと思うのでしっかり自分の備えを伝えていこうと思います。

○多様な視点が大切ということ、事前に、日常的に考えることの大切さがとてもよくわかりました。具体的で良かったです。

○差別がある所では非常時に必ず差別がおきる、差別をなくすための教育を実践していかなければと改めて考えることができました。